2版

様　式　C－１９、F－１９－１、Z－１９　(共通)

科研費
KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月　９ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ０２４７５
研究課題名（和文）歌舞伎興行と近世期出版商業活動における連動性についての発展的研究

研究課題名（英文）Research on the Linkage Between Kabuki Performances and the Early Modern Commercial Publication

研究代表者
倉橋　正恵（Kurahashi, Masae）

立命館大学・産業社会学部・非常勤講師

研究者番号：９０４２５０１７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では江戸後期の歌舞伎興行の実態を解明すると共に、興行と連動する商業的な芸能関係出版物によって形成される出版文化が、都市文化へと展開していく様相について、具体的な事例を用いて明らかにすることを目的としていた。
研究成果として、劇場内部資料から当時の歌舞伎興行の様態を探り、興行に即して出版された「歌舞伎番付」についての調査研究を行った。調査結果は資料を所蔵する所蔵機関の所蔵品のデータベースに反映させた。また、上演記録から幕末の配役情報を抽出し、配役による歌舞伎上演年表データベースを作成して公開した。さらに、本研究の研究成果をまとめた『江戸歌舞伎の情報文化史』（単著、汲古書院）を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
幕末は近世出版文化が最盛期にあたる時期であり、歌舞伎興行と出版の関係性も非常に密接であると考えられる。しかし、近世後期以降の大芝居の興行形態については、現存する劇場内部資料が乏しいために実態が解明されておらず、したがって興行に付随する出版文化事象も推測の域から出ていないというのが現状である。
本研究では演劇・日本史・文化・文学といった複数の視点から研究を行うことにより、複合的な考察を深め、さらに歌舞伎興行と周辺の文化事象の関連性に注目することで、今後の諸分野の研究活動に及ぼす成果は大きい。加えて、これまで推測されていた歌舞伎興行と関連出版物についての連動性についても、明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research was to elucidate the actual state of Kabuki performances in the late Tokugawa period, and to clarify--with specific examples--how the print culture, formed by the commercial publications linked to the Kabuki performances, developed into an urban culture.
My research includes an exploration of the actual state of Kabuki performances at the time, based on internal theater documents, and a survey study of Kabuki banzuke (playbills), which were published in accordance with the performances. The results of my research on Kabuki banzuke were reflected in the databases of the institutions that held the materials. In addition, I extracted information on the casts of Kabuki plays at the end of the Tokugawa period from Kabuki performance records, and constructed a database of Kabuki performance chronology according to the casts. Furthermore, I published some of my research results as A History of Information Culture in Edo Kabuki (2021) from Kyuko Shoin.

研究分野：芸能文化史

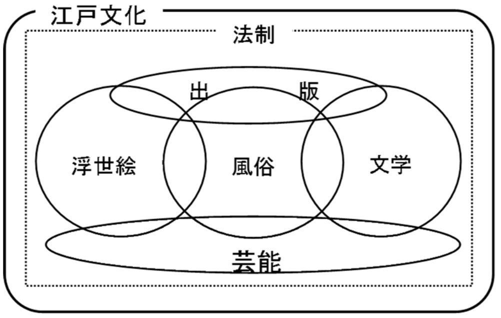
キーワード：歌舞伎　興行　出版　浮世絵　近世文学　情報　メディア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　C－１９、F－１９－１、Z－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

図１



研究代表者は、これまで主に演劇史の方面から江戸文化研究に取り組んできたが、分野間の拘束に縛られることなく演劇（特に歌舞伎）から派生する諸文化事象、つまり浮世絵や一枚摺、また文学作品といった出版文化にも注目してきた。具体的には、歌舞伎芝居の一場面や、役者を描いた役者絵を中心とする浮世絵版画の調査及び目録化、浮世絵版画を企画・出版・販売する浮世絵版元の目録化、役者の格付けを表す見立番付に代表されるような芸能関係の一枚摺出版物の調査と目録化を行ってきた。特に浮世絵版画に関しては、歌舞伎役者を描いた役者絵の作品数が突出している初代歌川国貞に注目して、国貞作品の目録化及び歌舞伎興行と浮世絵出版活動の関係性の解明に努めてきた。

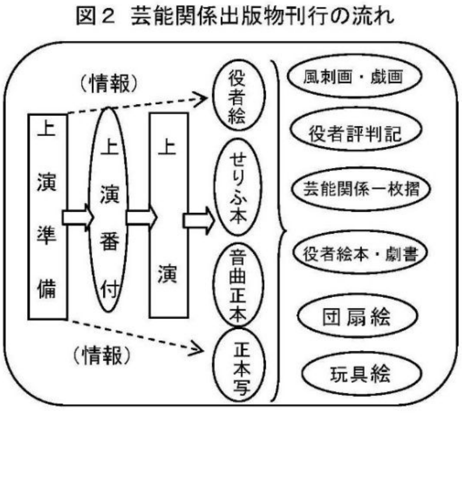
こうした近世後期芸能関係出版物の基礎調査を行う中で、法制という枠組み内で浮世絵や文芸作品という文化表現は、いずれもその根底に歌舞伎興行を主とする芸能文化を持っていること、また多様な文化事象が複雑に絡み合いながら、芸能文化の多様性を示すものであるということが判明した〔図1〕。したがって、総体的な江戸文化研究を行うためには、歌舞伎興行そのものについての研究は言うまでもなく、文学・絵画・出版・法制といった各分野の基礎研究を行い、、これらの成果を利用しながら芸能文化としての広がりや関連性を理解することが必要となる。この考えに基づき、研究代表者は「近世文化形成における歌舞伎興行と出版活動の連動についての基礎研究」（2014-2016 年度、科学研究費補助金・基盤研究C）の研究助成を受け、研究会活動と歌舞伎関係資料の調査研究を通して、出版・芸能文化の根底となる歌舞伎興行そのもの、さらに芸能と出版文化の密接な交流の様相を解明するための基礎研究を行った。その結果、幕末歌舞伎興行と出版活動には、「町名主」の存在が介在していた可能性を指摘した。江戸における町名主は、法制の末端機関として担当町を差配すると同時に、天保改革以後は様々な業種を取り締まる「掛名主」としての役目を担っており、出版に関しては交替で出版物の検閲に携わっていたことがよく知られている。そして、出版と同様に芝居町にも掛名主がおり、芝居町や劇場と緊密な関係を築いていた。この芝居町担当の掛名主と、浮世絵を含む出版の検閲を行っていた掛名主の中には、両方に携わる名主が複数確認できるのである。芝居と出版の両方に深く関わる名主の存在は、これまで想定されてきた関係性よりも、さらに両者を強く結びつけるものと考えられる。出版物の検閲の問題により、浮世絵研究においては掛名主の存在がこれまでに指摘されることはあった。しかし、名主の活動実態はほとんど明らかになっていない。また、歌舞伎興行への掛名主の介入は、従来全く注目されておらず、本研究の指摘が唯一のものとなる。

近年の歌舞伎研究では、諸機関の所蔵資料整理と閲覧体制が整いつつあり、大量に残存する上演資料や役者絵を用いた、演劇研究者や浮世絵研究者による演劇・美術史的な視点から捉えたものと、法制史料や様々な諸記録を用いた日本史研究者による文化史的な視点から捉えたものの二種の研究方法が存在している。後者については、江戸中期の上方地域の興行研究は多少進んでいるものの、本研究で注目する近世後期から幕末にかけての江戸の大芝居の興行形態についてはこれまで全く着手されていない。幕末は近世出版文化の中で最も隆盛を極めていた時代であり、歌舞伎興行と出版の関係性も非常に密接であると考えられる。ところが、興行自体の研究が進んでいないことから、様々な事象も推測の域から出ていないというのが実情である。

本研究では演劇・日本史・文化・文学研究といった複数の側面からアプローチすることにより複合的な考察を深める。また本研究で判明する歌舞伎興行と周辺の文化事象の関連性、特に「名主」が介在する関係性を示す、というこれまでになかった視点により、研究分野の枠組みを超えて、諸分野の研究活動に及ぼす成果は非常に大きいと考えられる。加えて、これまで関連性が推測されていた、歌舞伎興行と周辺の関連出版物についての解明も可能となるのである。

２．研究の目的

図２ 芸能関係出版物刊行の流れ



本研究では、上記のような研究姿勢と、これまでの基礎研究の成果に基づき、出版文化が極めて発達した幕末期における、歌舞伎興行の更なる実態解明を第一の目的とする。また、芝居の上演に先行して、もしくはほぼ同時に劇場側が頒布する各種の上演番付とは別に、役者絵やせりふ本、芝居の舞踊場面の詞章を記した音曲正本、芝居の内容を小説化した正本写などといった芝居内容に関連する様々な商業出版物、さらに芝居関連の出版物によって広まった、世間の評判をまとめた役者評判記や芸能関係の一枚摺、役者の評判を絵画的に表現した風刺画といった、役者の評判を表すものや、役者絵本、劇書、団扇絵、玩具絵などといった様々な種類・形態のものが次々と製作、販売されていった〔図2〕。

したがって、本研究の第二の目的は、第一で明らかとなった歌舞伎の興行実態や、上演情報を基盤として、美術史や文学史、風俗史、社会史などの多角的な視点から歌舞伎の上演が様々な出版物に及ぼした影響について考察を行い、芸能と出版文化の密接な交流の実体を解明することである。このように、第一・第二の目的を達成することにより、芸能を根底に据えていた近世文化全体のジャンルを超えた考察に繋がるのである。

３．研究の方法

本研究では**（１）幕末の歌舞伎劇場運営についての検討**、**（２）歌舞伎の上演が、歌舞伎関係出版物に及ぼした影響と関係性についての検討**、という二方向からのアプローチで検討を進めていった。

（１）については、劇場内部資料の『中村座日記』（早稲田大学演劇博物館蔵、江戸後期から幕末の11年間分を所蔵）を中核資料として用いた。先の「近世文化形成における歌舞伎興行と出版活動の連動についての基礎研究」（2014-2016年度）での研究成果のもとに、興行や劇場運営がどの様に行われていたのか、一つの芝居がどの様に準備されて上演に至るのか、といった具体的な興行実態の解明をより一層深める。具体的には、研究期間全体を通して『中村座日記』の翻刻を行うと同時に、同日記に書かれた事象から興行や役者の契約について事例報告を研究会等で行った。また、国内外の歌舞伎関係出版物、特に上演に即して出版される芝居番付の調査を行った。

（２）については、芝居番付や役者絵といった直接的に興行と連動する歌舞伎関係周辺の出版物について注目した。これらの出版物は製作時間を必要とするため、準備段階から様々な上演情報が、番付筆耕や番付絵師、浮世絵師、版元といった出版関係者へ流れていったと推測できる。しかし、従来の研究では、上演の関係性について指摘されるものの、未だその詳細を不明な部分が多い。この原因の一つには、現存する劇場内部資料が極めて稀少であり、そのため興行実態を明らかにできなかったからである。しかし、本研究では（１）のような『中村座日記』という第一級史料の研究成果をふまえることによって、芸能と商業出版活動の交流の具体的な例を示しながら、劇場外部への上演情報流出の様相を明らかにすることが可能となった。具体的には、浮世絵・文学・一枚摺といった劇場外部から出された商業出版物が、芝居の上演とどのように連動して準備、作成されていたのかを、様々な事例を挙げながら追求した。

４．研究成果

上記の「３．研究の方法」で記した（１）と（２）についての研究成果は、以下のようである。

（１）、幕末の歌舞伎劇場運営についての検討

「中村座日記研究会」（2017年6月、於立命館大学、（研究代表者口頭発表）「役者絵出版と名主－嘉永5・6年の場合－」、2017年9月於同志社女子大学）や、「ARC番付ポータルデータベースを活用した興行番付のグローバルアーカイブ構築研究　歌舞伎興行と番付」（2019年9月、於立命館大学、（研究代表者口頭発表）「歌舞伎番付とは」）といった研究会活動を通して、江戸三座の一つである中村座の興行記録『中村座日記』に記される記事を追いながら、幕末から明治初期にかけての上方も含めた歌舞伎や、その他の芸能興行の資料や実例を照らし合わせて、当時の興行形態について検討を重ねた。また、幕末から明治期にかけての江戸・東京の歌舞伎上演年表である『続々歌舞伎年代記　乾』（田村成義編、市村座、1922年）に収録される上演情報から、安政6年～明治元年（1859-1868）の配役情報を抽出し、配役による歌舞伎上演年表のデータベース（仮称）「続歌舞伎年代記配役閲覧データベース」（約10200件、http://www.dh-jac.net/db/haiyaku/search.php）を完成させた。同データベースは立命館大学アート・リサーチセンターのWebサイト上で、一般利用が可能な状態で近日中に公開される予定である。

（２）、歌舞伎の上演が、歌舞伎関係出版物に及ぼした影響と関係性についての検討

芸能関係出版物については、歌舞伎興行に基づいた役者批評の出版物である役者評判記を翻字した資料集『歌舞伎評判記集成　第三期』第一巻（役者評判記刊行会編、2018年2月、和泉書院）、第二巻（役者評判記刊行会編、2019年2月、和泉書院）、第三巻（役者評判記刊行会編、2020年2月、和泉書院）、第四巻（役者評判記刊行会編、2021年2月、和泉書院）の刊行に携わった。また、幕末期の歌舞伎芝居の台帳を翻字した資料集『未翻刻戯曲集24　花埜嵯峨猫魔稿』（国立劇場調査養成部編、2018年3月、日本芸術文化振興会）、『未翻刻戯曲集25　木下曽我恵真砂路』（国立劇場調査養成部編、2019年3月、日本芸術文化振興会）の刊行に携わった。

これまで未紹介であった歌舞伎役者に関する資料6点についての資料紹介及び翻刻した「（資料紹介）志水文庫所蔵『役者似顔絵金付』六種」（『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』13号、2019年6月)をまとめ、「異分野融合による「総合書物学」の構築：文化・情報の結節点としての図像プロジェクト」第2回絵入百科事典研究会（2020年2月、於国際日本文化研究センター）において、（研究代表者口頭発表）「節用集形式の劇書－『戯場節用集』を中心に－」を行った。

この他、本研究によって得ることができた近世期の歌舞伎興行や役者、浮世絵出版についての新しい見解をもとにして、役者絵を研究対象とする研究者と共に座談会へ参加した。その内容は、「座談会－役者絵研究をめぐって」として、歌舞伎学会紀要『歌舞伎　研究と批評　特集：歌舞

伎と浮世絵』59 号（2017 年 11 月、雄山閣）において公刊している。さらに、雑誌『演劇界』においても、「歌舞伎名作案内 80　極付幡随院長兵衛」（2017 年 12 月号、演劇出版社）、「歌舞伎名作案内 88　岸姫松轡鑑」（2018 年 8 月号、演劇出版社）、「歌舞伎名作案内 91　黒手組曲輪達引」（2018 年 11 月号、演劇出版社）、「歌舞伎名作案内 103　傾城返魂香」（2019 年 11 月号、演劇出版社）、「歌舞伎名作案内 108　心謎解色糸」（2020 年 3 月号、演劇出版社）、「歌舞伎名作案内 114　五大力恋緘」（2020 年 12 月号、演劇出版社）、国立劇場第 94 回歌舞伎鑑賞教室「日本振袖始」公演プログラム（2018 年、国立劇場）の作品解説と、書評二点を著すことができた。

こうした研究論文や解説等の執筆と共に、近世期の歌舞伎興行に即して出版された「歌舞伎番付」については、2018 年 11 月にボストン美術館（アメリカ合衆国、ボストン）所蔵歌舞伎番付の研究調査を行った。調査の結果、幕末期の江戸の劇場で出された約 200 点の絵本番付の整理・目録化を行うことができた。調査での研究成果は、立命館大学アート・リサーチセンターの「番付ポータルデータベース」(http://www.dh-jac.net/db1/ban/search_portal.php)に反映させると共に、番付の所蔵館であるボストン美術館へデータ提供し、同館が公開する所蔵品データベース（https://www.mfa.org/collections/search）にも反映されている。この他、2018 年度に立命館大学アート・リサーチセンターでデジタル撮影した、歌舞伎研究者所蔵の上方芝居番付を中心とする番付コレクション約 390 点の画像データを、アート・リサーチセンター番付ポータルデータベースに組み入れ、その上で各番付の上演を考証し、その上演情報を同ポータルデータベースへ逐次反映させている。

加えて、2020 年度の科学研究費補助金・研究成果公開促進費（学術図書）の助成を受けて、上記（１）（２）の研究成果を、「情報」というキーワードによってまとめた研究論文集『江戸歌舞伎の情報文化史』（単著、汲古書院）を 2021 年 3 月に刊行した。同書は研究篇（第一部～第三部、研究論文 15 本）と、資料篇（資料翻刻 3 本）から成り、第一部には劇場内部資料である『中村座日記』を中心資料として、江戸後期から幕末にかけての歌舞伎興行の実態、及び興行に付随して劇場から出版・配布された芝居番付の関係性、さらに劇場と役者の契約状況について考察した。第二部では、歌舞伎興行や役者に関する芸能情報が、二次情報化されて商品となり、販売されて都市生活に浸透していく過程と、その背景を明らかにした。第三部では多様な芸能出版物の情報から、新たな芸能記録・情報として再生産されていく様相を、具体例を用いて明らかにした。資料篇は、全て研究篇の研究論文で考察した資料の全翻刻である。いずれの資料も、同書の資料紹介が初めての公開となるものである。このように、同書の刊行によって、本研究の研究成果は学会誌や大学紀要等の限定された範囲だけでなく、一般読者に向けても広く公開することが可能となった。

以上のような研究成果をふまえた上で、近世文化を複合的な視点で考察し、従来の歌舞伎研究では捉えることのできなかった、歌舞伎を中心とする芸能情報と周辺の文化事象との関連性についての研究を進めることができたのである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 倉橋正恵	４．巻 2020年12月号
２．論文標題 歌舞伎名作案内114　五大力恋緘	５．発行年 2020年
３．雑誌名 演劇界	６．最初と最後の頁 96-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 倉橋正恵	４．巻 2020年3月号
２．論文標題 歌舞伎名作案内108　心謎解色糸	５．発行年 2020年
３．雑誌名 演劇界	６．最初と最後の頁 104-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 倉橋正恵	４．巻 13号
２．論文標題 （資料紹介）志水文庫所蔵『役者似顔絵金付』六種	５．発行年 2019年
３．雑誌名 神戸女子大学古典芸能センター紀要	６．最初と最後の頁 34-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 倉橋正恵	４．巻 2019年11月号
２．論文標題 歌舞伎名作案内103　傾城反魂香	５．発行年 2019年
３．雑誌名 演劇界	６．最初と最後の頁 104-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 倉橋正恵	4．巻 8月号
2．論文標題 歌舞伎名作案内88　岸姫松轡鑑	5．発行年 2018年
3．雑誌名 演劇界	6．最初と最後の頁 110-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 倉橋正恵	4．巻 11月号
2．論文標題 歌舞伎名作案内91　黒手組曲輪達引	5．発行年 2018年
3．雑誌名 演劇界	6．最初と最後の頁 102-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 倉橋正恵	4．巻 平成30年7月号
2．論文標題 「日本振袖始」解説	5．発行年 2018年
3．雑誌名 国立劇場第94回歌舞伎鑑賞教室「日本振袖始」公演プログラム	6．最初と最後の頁 2-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 倉橋正恵	4．巻 12月号
2．論文標題 歌舞伎名作案内　極付幡随長兵衛	5．発行年 2017年
3．雑誌名 演劇界	6．最初と最後の頁 116-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 倉橋正恵
2．発表標題 節用集形式の劇書―『戯場節用集』を中心に―
3．学会等名 異分野融合による「総合書物学」の構築：文化・情報の結節点としての図像
4．発表年 2020年

1．発表者名 倉橋正恵
2．発表標題 歌舞伎番付とは
3．学会等名 ARC番付ポータルデータベースを活用した興行番付のグローバルアーカイブ構築研究　歌舞伎興行と番付研究会
4．発表年 2019年

1．発表者名 倉橋正恵
2．発表標題 役者絵出版と名主－嘉永5・6年の場合－
3．学会等名 中村座日記研究会
4．発表年 2017年

〔図書〕　計7件

1．著者名 倉橋正恵	4．発行年 2021年
2．出版社 汲古書院	5．総ページ数 634
3．書名 江戸歌舞伎の情報文化史	

１．著者名 役者評判記刊行会編（倉橋正恵）	４．発行年 2021年
２．出版社 和泉書院	５．総ページ数 484
３．書名 歌舞伎評判記集成　第三期　第四巻	

１．著者名 役者評判記刊行会（倉橋正恵）	４．発行年 2020年
２．出版社 和泉書院	５．総ページ数 456
３．書名 歌舞伎評判記集成　第三期　第三巻	

１．著者名 役者評判記刊行会編（倉橋正恵）	４．発行年 2019年
２．出版社 和泉書院	５．総ページ数 504
３．書名 歌舞伎評判記集成　第三期　第二巻	

１．著者名 瀬川如皐作、国立劇場調査養成部編（倉橋正恵）	４．発行年 2019年
２．出版社 日本芸術文化振興会	５．総ページ数 251
３．書名 未翻刻戯曲集25　木下曽我恵真砂路	

1．著者名 役者評判記刊行会	4．発行年 2018年
2．出版社 和泉書院	5．総ページ数 476
3．書名 歌舞伎評判記集成　第三期　第一巻	

1．著者名 瀬川如皐作、国立劇場調査養成部編	4．発行年 2018年
2．出版社 日本芸術文化振興会	5．総ページ数 277
3．書名 未翻刻戯曲集24　花埜嵯峨猫魔稿	

〔産業財産権〕

〔その他〕

続歌舞伎年代記配役閲覧データベース
https://www.dh-jac.net/db/haiyaku/search.php
ARC番付ポータルデータベース
https://www.dh-jac.net/db1/ban/search_portal.php
ボストン美術館所蔵品データベース
https://www.mfa.org/collections/search

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関

米国	The Museum of fine arts, Boston（ボストン美術館）			